

勤労感謝の日になんだ「職場見学」

1. 目的と経緯

- ・ 勤労感謝の日になみ、身近な地域の人々の働く姿を見せていただくことで様々な仕事に興味を持つ。
- ・ 働くことの大切さを知り、働く人々に感謝の気持ちを持つ。



2. 内容

年長：消防署見学

消防車や救急車等、緊急車両の中や設備を見せていただき、役割や使い方の説明をしていただいた。

年中：CATV富士五湖見学

スタジオセットに入り、一人ひとり撮影用のカメラを覗かせていただいたり、映像の編集をするところを見せていただいたりした。

年少：山梨ヤクルト販売株式会社見学

ヤクルト体操やクイズ、ヤクルトマンの写真撮影、冷蔵倉庫内の見学などをさせていただいた。

未満児：福源寺見学

本堂の中を見学させていただき、住職である園長先生にお経や、喚鐘や響銅などの仏具の音を聞かせていただいた。



3. 成果と課題

園内で教員から話を聞くだけではなく、職場に伺い実際に働く姿を見たり直接職員の方から説明を聞いたり出来たことで、「仕事」や「勤労感謝の日」により興味を持つことが出来た。働くことの大切さを学び、働く人への感謝の気持ちを伝えることが出来、良い機会となった。特に、年中・年長児は家族の仕事に興味を持つ姿や、友達になりたい職業について話す姿が見られた。

吉田高校・富士北稜高校 交流会

参加者：吉田高校 2年6クラス「保育基礎」・3年「ライフサポート」1名
：富士北稜高校3年6名「保育基礎履修」
：当園全園児

1. 目的と経緯

- 吉田高校：授業の一環として、幼い命と触れ合うことにより大人や親としてのあるべき姿を学び、保育者の役割や保育の実際を理解する。
- 富士北稜高校：観察実習から園児の発達の様子を理解する。
交流実習で園児の発達段階にあった保育内容を考え、実習を通しての振り返りをする。
- 当園 全園児：普段あまり関りがない高校生とたくさん触れ合い楽しく遊ぶ。

2. 内容

- 吉田高校：2年次=グループに分かれて各クラスに入り、保育見学及びふれあい遊び
：3年次=保育の中に入り子どもの援助や教諭の動きを学ぶ
- 富士北稜高校：1回目は見学実習
2回目は1回目の体験を生かし、年齢にあった絵本の読み聞かせを行う。



3. 成果と課題

- 高校生：はじめはどの様に接したら良いのか困惑する姿が見られたが、時間と共に園児との距離が縮まり、固定遊具やサッカー、鬼ごっこなどで楽しく関わり遊ぶことが出来た。
：交流前の諸注意で「命を預かっている」ことを伝えたところ、真剣に話を聞いていた。
：後に提出された感想文には、「意外に話が伝わる」や「何でもできることが分かった」という園児の実態について理解度が深まった文が多くみられた。
：絵本の読み聞かせは、事前に読み込んで内容を把握する必要があると、与える側は単に読むだけではなく準備が必要であることを体験を通して知る事ができた。
- 園児：普段あまり関ることが無い「高校生」との触れ合いは、子ども達にとって楽しい時間となった様子が窺えた。日頃関わる職員が女性ということもあり、男子生徒と思いきり走り回ったり真剣勝負でサッカーをする姿が印象に残った。

年中組味噌づくり体験

1. 目的と経緯

本園では毎年、年中組が園の遊戯ホールにて味噌作り体験を行っています。講師として甲府市の五味醤油様をお招きし、日本の伝統的な発酵食品である味噌について学んでいます。

本活動は、原料である大豆・麴・塩に触れながら、味噌ができるまでの工程を体験的に理解することを目的としています。また、食材や作り手への感謝の気持ちを育み、食への関心を高めることもねらいの一つです。

なお、本園では子どもたちが仕込んだ味噌を本堂で一年間保管・熟成させ、翌年度の給食で提供しています。園の給食で使用する味噌は、園児が毎年作り続けているものです。

2. 内容

当日は、講師より味噌の原料や発酵の仕組みについて、子どもたちにも分かりやすく説明していただきました。

その後、

- ・煮た大豆をつぶす
- ・麴と塩を混ぜ合わせる
- ・材料をよくこねる
- ・空気を抜きながら容器に詰める

という工程を体験しました。

子どもたちは「やわらかい」「いいにおいがする」などと話しながら、五感を使って意欲的に取り組んでいました。

仕込んだ味噌は本堂で一年間大切に保管し、四季の移ろいの中でゆっくりと熟成させます。

翌年度に完成した味噌は給食で提供し、日々の食事の中で味わいます。

3. 成果と課題

(1) 成果

味噌作り体験を通して、子どもたちは日本の伝統的な食文化への理解を深めることができました。原料から食品へと変化する過程を体験することで、食べ物への関心や大切に作る気持ちが育まれています。

また、自分たちで仕込んだ味噌が給食で提供されることにより、食事への意欲向上にも繋がっています。

毎年継続して実施することで、園全体の食育活動として定着している点も大きな成果です。

(2) 課題

一年間の熟成期間がある為、子どもたちが発酵の過程に継続的な関心を持てるよう、経過を伝える工夫が必要です。また、衛生管理や保管環境の確認を引き続き徹底していくことも重要です。今後も地域との連携を大切にしながら、子どもたちの豊かな食育につながる取り組みとして発展させていきたいです。

命を守る教育

～富士山火山噴火を想定した引き渡し訓練～

学校法人月江寺学園
月江寺幼稚園

1. 目的と経緯

(目的)

昨今世界的な気候変動により大雨, 暴風, 大雪, 乾燥などの異常気象による非常変災が数多く報告されている。幼稚園では, 園児が知識として理解する避難ではなく, 状況に応じた教職員の的確な判断とその場に応じた園児の避難行動の体験が大変重要と考えている。そのため, 避難訓練(地震・火災・富士山噴火・不審者侵入等)について, 毎年状況を変えて実施し, その反省を次の訓練に反映させていく必要がある。今回は富士山噴火警戒レベル3を想定した訓練を富士山科学研究所より専門の職員を招き, 訓練の様子を観察していただいた上で改善点を明確にし, 今後の災害に備える体制づくりを目指していく。

(経緯)

○2025.5.7 月江寺幼稚園地震・自然災害等引き渡しマニュアル改訂

○2025.5.8 令和7年度富士山噴火警戒レベル3を想定した引き渡し訓練実施要項を富士山科学研究所久保研究員に送付及び6月20日実施予定の訓練での講師依頼

○2025.5.20 引き渡し訓練 Q&A 及び富士山噴火に係る警戒レベル資料を保護者配布

○2025.6.18 引き渡し訓練に関する内容について最終確認をするとともに, 教職員・保護者アンケートについて検討

○2025.6.20 令和7年度富士山噴火警戒レベル3を想定した引き渡し訓練実施

2. 内容

- ① 午後の学習中, 富士山警戒レベル3が発令される。
- ② 登降園路について富士山警戒レベル3発令による危険が予想されるためバスの運行は困難, 引き渡しを判断する。13:30連絡アプリで引き渡し以来の緊急メール発出
- ③ 保護者は, 災害発生時の行動計画に従い, 園児の引き取りに来園する。
- ④ 職員は, 引渡し要領に従って速やかに引き取り者に引き渡す。

3. 成果と課題

・事前に資料配布があったので警戒レベルや引き渡しのQ&Aで情報を共有することができた。

・実際の行動を確認し, スムーズな引き渡しができるようになった。

・車で来園した場合の駐車場をどのようにしていくのか。

来年度は, ドライブスルー方式で園児を引き渡す予定。

・幼稚園単独ではなく, 市内の小中学校と連携した訓練が必要ではないか。

・家具等の転倒防止が完全ではないので確実に安全確保できるようにした方がよい。

・職員の子どもの対応や警報が発令された時からの動きを含めたより実践的な訓練が必要。



干し柿作りでつながる地域の輪

1. 目的と経緯

本園では「あそび」と「祈り」を教育理念とし、日々の生活や散歩の中で出会う人や自然を大切にしている保育を行っています。本事例では、干し柿作りを通して、地域の方々との関わりが子どもたちの学びへとつながった様子を報告します。

2. 内容

年長児は、今年で3回目となる干し柿作りに取り組みました。柿は、散歩の途中で通りかかる道沿いの柿の木から、3年間分けていただけてきました。今年が最後の年となることをきっかけに、子どもたちと「ありがとうを伝えよう」ということになり、みんなで書いたお手紙と完成した干し柿を持ってお礼に伺いました。



また、収穫の際には、以前交流のあった校長先生に偶然出会い、高い場所の柿を取るお手伝いをしていただきました。子どもたちはそのことを思い出し、感謝の気持ちを込めて校長先生へも手紙と干し柿を届けに行きました。

訪問時にはお兄さんお姉さんと一緒に、しっぽとりゲームをしてあそぶ時間が生まれ、自然な形で交流が広がりました。



3. 成果と課題

干し柿作りを通して、子どもたちは地域の方々との関わりを身近に感じ、「感謝の気持ちを伝える」経験を積むことができました。また、お兄さんお姉さんとの関わりを通して、憧れや社会性が育つ姿も見られました。

一方で、交流が偶然に支えられる場面も多く、今後は無理のない形で交流の機会を積み重ねていけると良いと思います。

身近な生活体験から生まれた活動が、地域とのつながりへと広がる貴重な機会となりました。今後も、子どもたちの気づきや思いを大切にしながら、地域に見守られ育つ保育を続けていきたいと考えています。

本園の地域連携・地域交流

学校法人 ひまわり幼稚園 幼稚園型 認定こども園

都留市で営む果樹農園との交流～桃の花から収穫・その後の定点観察を通して～

1. 目的と経緯

- ・自分たちが住む地域の方々と交流することで知識や見方を広げると共に色々な職業を知る。
- ・果樹園を定期的に観察していくことで、自然の移り変わりや果実の変化に気づく。
- ・地域の物産品（桃）の着花、摘果、収穫、出荷、販売までの過程を知る。



2. 内容

温暖化により都留市でも、桃やブドウの栽培が増えてきている。

3月中旬頃、果樹園を営んでいる保護者より「桃のお花見はどうか」とお誘いを頂いた。

桜のお花見はよくあるが、都留市の桃のお花見は子どもたちにとっても初めての経験。

お花見をしながら桃の花をよく観察してみると、花の中に「桃の果実の赤ちゃん」を発見。

その興味を捉え、定点観察していくことで“桃の花から実”への一連の成長の流れを見て感じることができるとよいと計画を立てた。

4月…鮮やかなピンク色の花の下を散歩。下から見上げると空に伸びていく桃の木の枝や花がきれいだった。花の匂いを嗅いだり観察したり楽しんだ。

果樹農家さんより、桃の木に触ったり、折ったりすると美味しい桃ができないことを教えて頂いた。

5月…いつの間にか花が無くなり木にはぎっしりと緑の葉っぱが。ピンクから緑へ見た目の様子の変化に不思議な気持ちがあった。葉っぱだけに見える桃の木に「小さな桃の赤ちゃん」があることを教えて頂いた。

6月…「摘果」…いつの間にか大きくなった桃、まだ緑で細長い。

そんな桃が地面一杯に落ちている、1本の枝に1つか2つの桃を大切に育てるために他の桃は落としてしまうことを知る。

7月…「袋かけ」…大きくなった桃は傷がつかないように大切に袋をかけてあげることを教えて頂いた。

8月…種類によって収穫時期が違う。美味しくなった桃から順次出荷。

★赤ちゃんから見てきた桃を「道の駅つる」まで買いに行こう～美味しく食べよう～

★少しだけ傷がついた桃、形の悪い桃は売れない…もったいないね

★アウトレットの桃で作ったコンポート。冬になっても食べられるね⇒クリスマスケーキ作り



2. 成果と課題

日頃、スーパーで当たり前前に並び購入している桃が、お店に並ぶまでには果樹園の方々が愛情を注いで育てる一連の過程があることを目の当たりにした子どもたち。そこには多くの気付きがあり同時に花から実へと変化していく不思議さも実感した。そして、果樹園というぶどうや桃を育てる仕事、道の駅で地域の物産品を販売している方々など5歳児のイメージの中にはなかった職業を知る良い機会となり、何よりも「都留市産桃」に出会えたことは大きな収穫となった。

本園の地域連携、地域交流

認定こども園ドリームツリー・マリア国際幼稚園

国際交流

～積極的に英語を使って周囲とコミュニケーションをとる～

1. 目的と経緯

- ・国際社会がますます進んでいる現在、幼児教育の「英語」の必要性が強く認識されているため、本園では日ごろから積極的に英語を使い、幼児期から英語に親しめるようにしている。
- ・35周年を迎え、創設当初より様々な国の保育士と生活の中で楽しみながら英語に親しんできた。
- ・保育士からだけでなく、毎年デンマークから研修生を招き、会話や遊び・日常生活に必要な言葉を自然に学んでいる。

2. 内容

- ・日々の生活の中で研修生に毎日のミーティングを行ってもらい、活動・行事も一緒に楽しんでいる。
- ・毎週週1回程度、研修生による活動を30分程度設けながら、子ども達が積極的に関わられるようにしている。また、言葉は英語のみを使っているが、お互いに歩み寄りながら信頼関係を築くことができている。
- ・活動内容としては絵本の読み聞かせ・室内・室外のゲームなど、子ども達が楽しんで参加できるものを毎回用意してくれている。またデンマークの文化などについても話す時間を作ってもらっている。
- ・研修生が来た際には毎回どこの国から来たのか？またその場所はどこにあるのか？など、地図や国旗なども広げて子ども達に問いかけ、興味関心を持てるようにしている。
- ・Welcome party だけでなくお別れの際には Farewell party も行っている。



3. 成果と課題

- ・英語を聞く力が育ち、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとる姿が見られている。また、聞こうとする力も育ってきている。
 - ・担任とはまた違った立ち位置で子ども達と信頼関係を築き、お互いに心を通わせている。一方で楽しくなるとけじめをつけられないこともあるので、あくまでも保育士の一員として信頼関係を築いていけると良い。
 - ・外国の方が来園しても、動じずに自ら関わり進んで挨拶をし、一緒に過ごすことができているので、子ども達がコミュニケーションを恐れることがない。
- またデンマークだけでなく他の国や国旗にも興味を持ち、絵本や図鑑などで国旗や場所を調べている。

「日本の文化を知り、経験する ～茶道教室に参加して～」

忍野村立認定こども園忍野幼稚園

1. 目的と経緯

地域連携の一環として、地元で茶道を教えている方を講師に招き、年長児の茶道体験(年2回)を始めてから10年以上が経ちます。茶道は、礼儀作法や集中力、心を落ち着けることを体験できる日本の伝統文化です。茶道体験をすることで、礼儀作法の大切さに触れ、相手にお茶を点てる＝相手を思いやるという「おもてなしの心」を学ぶ貴重な機会となっています。また、地域の方とのつながりや文化への理解を深めることも目的としています。



2. 内容

地元の茶道の先生による指導のもと、茶道の基本的な作法(お辞儀の仕方、正座の練習など)を学びます。子どもたちは、実際に茶せんを使ってお茶を点てる体験をし、子ども同士でお茶を出し合います。お茶を受け渡す際の所作や言葉遣いも教えてもらい、掛け軸や生け花を飾る意味も教えていただきます。2回目の体験の時には、参観日として保護者の方にも参加していただき、子どもたちが保護者にお茶を振舞います。



3. 成果と課題

普段の生活では触れることのない茶道体験を通じて、お茶を点てる作法や道具を扱う際に求められる慎重さや集中すること、少しの時間でも静かに取り組むことを経験できます。また、参観日では保護者への感謝の気持ちを、お茶を点てることで伝え、参加した保護者の方も成長している姿を目の当たりにして、喜んでいる様子が毎年伺えます。

課題としましては、年長の子どもたちは集中力が続かないこともあるため、先生の話聞きながら意欲的に進められるように、個人差も考慮した言葉かけやサポートが必要なことが挙げられます。年2回という限られた回数ですが、地域の方との交流、その貴重な体験を通して日本文化への理解と興味を育むきっかけ作りとして、これからも続けていきたいと思えます。